

interview

岩槻第二工場 工場長補佐
たけはなしょうと
竹花翔人

2012年に藤工業株式会社へ入社した竹花翔人さん。これまでに工場と現場の両方で経験を積み、着実にキャリアを築き上げてきました。若いときの失敗や反省を経て、今の自分があるといいます。仕事に対する思いや今後の目標などについて話を伺います。

建設に関わる仕事の魅力について教えてください。

前職も建設現場で仕事をしていました。働いているうちに、次第に工場における製造に興味を持つようになり藤工業に入社しました。しかし入社から1年半ほどで、やはりもう一度現場で汗水流して働きたいという気持ちが沸き起こり、異動を申し出ることに。「きつい、汚い、危険」の頭文字から3Kと呼ばれる通り、現場での仕事は雪が降っても行い、肉体的にも精神的にも過酷です。しかし、「自分たちの仕事は建物の土台を支えている」という誇らしさを持って仕事をしてきました。

現場で5年ほど仕事を続けた頃、腰に怪我を負い「迷惑をかけられない」と退職を考えていると、かつての上司から声がかかり再び工場勤務になり

ました。戻ってからは、鉄筋組立技能1級、鉄筋施工図作成1級、登録鉄筋基幹技能者という3種類の国家資格を取得。当時、自分より若い社員があまりいなかったこともあり、資格保有者がいれば会社の信用を高めて、より良い人材の確保につながるのではと勉強に励みました。呼び戻してくれた上司の恩にも報いたいと思いましたね。

資格を取得したことにより、「今作っているものは、建物のこの部分に使われるから、目的や用途をイメージして作業しよう」と現場での経験を踏まえて、具体的に指導できるようになりました。工場勤務している人は現場をほとんど知らないため、私の知識が役立てば嬉しいかぎり。また、若手の育成に携われることもやりがいの1つです。



仕事におけるターニングポイントはいつですか。

20代前半くらいまでは、仕事への責任感が乏しかったと反省しています。自分に非があるにもかかわらず、注意を受けても納得できなかったり無断欠勤をしたりと、当時の上司にはとても迷惑をかけました。

そのような私の意識が少しずつ変わり始めたのは、入社して7年ほど経った頃。先に述べた腰の怪我により工場へ戻ってからのことです。工場はちょうど若い世代が一気に入社したタイミングで、私が教える立場になり、自然にリーダーシップや責任感が身についたのだと思います。

また、中間管理職向けの外部のリーダー研修を受けたことも、私に大きな変化を与えました。体験型のアクティビティなどを通して学んだのは、視野を広げて物事をさまざまな角度から見ることの大切さ。1年ほど受講した研修で、価値観がガラリと変わりましたね。人と接する際に、相手の年代や性格に合わせたコミュニケーションをとうとう考えるようになりました。現在社内で、リーダーというポジションを任されることも増えてきたため、常に意識を傾けながら行動しています。

工場長補佐として注力しているのはどのような部分ですか。

とくに心がけていることは、コミュニケーションです。工場内だけではなく、会社全体として効率良く業務を回せるよう連携を図ることが重要です。ハウスメーカーごとの特色や工場の進捗状況などの情報を、部署の垣根を越えて共有し、より良い商品を生み出していきたいと思っています。



ありがたいことに私は若いときから役職を与えられましたが、それは自分の実力というよりも、運や周囲の皆さんが引き上げてくれたのだと感じています。元来、ピンチのときでもあまり弱みを見せたくないというタイプ。そのような私を温かく見守り、助けてくれる仲間恵まれてここまで来ることができました。これからも皆さんに恩返しするつもりで、精進します。

最後に、今後の目標をお聞かせください。

昨今は少子化により、子どもの数は減少する一方です。そのような中でも、若い世代に「入社したい」と選ばれる会社になりたいと思います。そのためには、入社後に定着してもらえようような居心地の良い環境作りをしていかなければなりません。これからの会社を担う若い社員たちの声に耳を傾けて、一緒に作り上げていきます。

広い視野を持ち、常に会社全体のことを考えながら業務に励む竹花さん。これからもリーダーシップを発揮して、藤工業のさらなる発展を支えていくに違いありません。

竹花さんってどんな人？

巻頭インタビューに登場した竹花さんに向けて、塩賀さんからメッセージが届いています！



岩槻第一工場
工場長
しおが かずよし
塩賀 和義 さん

竹花さんの尊敬しているところ

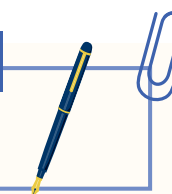
前述の通り、努力して資格を多く取得されているところを尊敬しています。

竹花さんを一言で表すと？
物知り

昭和生まれである私の世代の話も通じるので、物知りだと思っています。

竹花さんへのメッセージ

メンバーたちの指導と育成を、引き続きよろしくお願いいたします。



頑張れ! 技能実習生

祖国を遠く離れ、日本で奮闘している技能実習生から、頼もしい意気込みが届きました!
頑張りを近くで見ている上司からのメッセージもいただいています!



岩槻第一工場
アラン ガバランさん

現在の業務内容

製品を作るために生産指示書を確認し、鉄筋材料をカットしたり曲げたりという作業をしています。

仕事の上で難しいと感じること

何年もしている仕事なので、特別わからないことや難しいと思うところはあります。

仕事のやりがい

毎日の忙しい仕事の中で効率良く仕事を進めることができたり、ミスがなかったりというところにうれしさを感じます。自分の体力的にいつまで、どこまで仕事ができるか、日々チャレンジできる部分もやりがいです。

入社時と比べて成長したこと

入社した当時は仕事内容がわからず、仕事に対して自信が持てませんでした。今は9年ほど働いて、仕事内容や仕事の流れ、機械の操作を覚えたことでできることが増え、自信が持てるようになりました。

今後の目標

私が会社で働いている間は、フィリピンにいる子どもたちに良い教育を受けさせることができるため、家族のために頑張ります。

塩賀さんからのメッセージ

岩槻第一工場 工場長 塩賀 和義さん

毎日休まず他の研修生たちをまとめ、指導していただきありがとうございます。「私が働いている間は、フィリピンにいる子どもたちが良い教育を受けることができる」という言葉が素晴らしいと思いました。先日、私も選考会でフィリピンに行き、たまたまアランファミリーに会うことができました。子どもたちのためにもSSW(特定技能者)として、確かな技術とリーダーシップを発揮し、頑張ってください。

縁の下の力持ち



当社は鉄筋加工という仕事を通じて、お客様との信頼関係を築いています。今回は、お客様と当社をつなぐ業務を担当している畑岡さんのお仕事にフォーカスします。日々の業務を行う中で感じているやりがいや大変なこと、目標を教えてくださいました!



岩槻第二工場
はた おか ゆう
畑岡 悠さん

現在の業務内容

お客様が現場で使用する鉄筋の加工依頼を受けて、当社で加工するための段取りを行っています。業務は現場への鉄筋輸送手配、出庫した鉄筋の重量計算など、パソコンで行う作業が中心です。

今のお仕事のやりがい

学び続けて信頼を得ること

職人の皆さんから「あなたに任せておけば大丈夫」「任せて良かった」という言葉をいただくと嬉しく思います。入社した当初は、業界のことも仕事内容も全くわからず、電話をとっても「どうしよう」と戸惑うことばかり。私の入社後すぐに前任の方が辞めてしまったこともあり、わからないことはわかる人を探して教えていただくようにしました。加えて、社長が開催する講習会にも積極的に参加。不明点を残さないよう確認したり学んだりする努力を続けています。入社7年目になって、以前より鉄筋や建築のこと、皆さんの個性がわかるようになり、さらに仕事の楽しさを感じているところです。



実はこれ、結構大変なんです!

加工場と現場、両者を想って調整すること

事務の仕事は当社加工場とお客様の現場をつなぐポジションで、互いが気持ち良く仕事ができるように調整することが求められます。それぞれに意見があるため「両者気持ち良く」を叶えることが難しい場合も。特に納期は「忙しいため遅らせてほしい」加工場と「現場の工程をずらせない」お客様で、意見が食い違うことがあります。そのようなときの調整はとても難しい仕事です。最終的には、お客様を優先せざるを得ない場合がほとんどですが、事務員としてはできる限り配慮をし、「両者気持ち良く」を目指しています。

今後の目標

当社と現場とをつなぐ架け橋として、皆さんが気持ち良く仕事ができるような段取りをしていきたいと思っています。今以上に努力しなければならないことがあると思いますが「あなたじゃないとだめ」と言ってもらえる事務員を目指して頑張ります!

速報! 宮城工場Renewal!

宮城工場 事務所が建て替えを終え、2024年8月26日よりリスタートを切りました。リニューアルの背景やこだわりのポイントを、工場長の小野寺さんに詳しく伺います。

おの でら まなぶ
宮城工場 工場長 小野寺 学さん



こだわった点

女性や若い方も働きたくなる職場を目指して

カフェのような外観を意識しました。内装についても、従業員たちで意見を出し合って作り上げたものです。会議・応接室は工場長である私が、事務所内は積算を担当する女性陣が考えました。予算の制限はあるものの、自分たちの働きたい環境を実現できたことは大きなモチベーションに繋がっていくと思います。



リニューアル後の意気込み

従業員たちが最後まで登り詰めることができる拠点に

工場として売り上げを拡大し、自立自走に向けてステップアップしていくことが目標です。第1段階は、従業員たちが定年を迎えるまで働けるような拠点づくり。第2段階は、賃金のベースアップを課題としています。秋田と北海道にある工場とも連携して、従業員の研修システムや人員の管理システムなど、生産性向上の仕組みづくりも行えたらと考えています。

工場リニューアルの経緯

建物の老朽化と積算工場の新設

東日本大震災の影響で使われなくなった工場を買い取り、当社で11年ほど使用してきた宮城工場。事務所建物が古くなり劣化してきたことから、今回のリニューアルを決めました。

もう一つ大きなきっかけとなったのが、積算の部署を新たに設けたことです。3~4年工場長として務めるなかで、1人では何もできないことを痛感した私は、人員を拡大しながら従業員達と共にしっかり働いていける拠点づくりをしたいと考えました。女性や若い方にも来ていただきやすい場所を目指し、事務所の立て直しを行ったのです。